

A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.44
2023年12月15日発行

新しい支援の形

信頼があるからできる



特集

地域活動団体と組合の協力で育む子ども食堂
地域社会に支援と笑顔をもたらす団体と協同組合の連携
がるまる × パルシステム東京・足立センター

トピック

- 〇 聞きたいあなただけのストーリー あだちスクールバンドサポーターズ
- 〇 センターピックアップ NPO法人わんわんサポーターズ綾瀬
- 〇 開催レポート あだちNPOフェスティバル2023
- 〇 コラム スタッフのつぶやき

編集・発行 2023年12月15日 足立区 NPO 活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田7-13-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 協働・協創推進担当 TEL:03-3880-5020



開催レポート あだちNPOフェスティバル2023

足立のために活動するNPO団体&企業が一堂に介した心温まる祭典

11月18日(土)と19日(日)に、第14回あだちNPOフェスティバル2023(以下、Nフェス)が、梅島周辺の4カ所(足立成和信用金庫中央支店、エル・ソフィア、梅島公園、NPO活動支援センター)で盛大に行われました。

Nフェスでは、4会場を巡るスタンブラリー、NPO団体の活動などをPRするブース出展、ステージ発表(劇やダンス、剣舞、着ぐるみのショー)、スイーツやカレーの販売など多彩な企画が用意され、4つの会場が賑やかな雰囲気に包まれました。

2日間にわたり参加した企業や団体は70組以上。それぞれの団体が独自のアプローチで活動内容をアピールしました。例えば、コーヒーの販売で得た収益を保護猫活動に充てる団体や、遺言書の書き方相談に応じる団体、子育てでお疲れのママたちにハンドマッサージでリラックスを提供する団体など、多岐にわたります。また、ボードゲームやベーゴマ、運動ゲーム、ロープワークや毛布を使った担架体験、松ぼっくりを使用したクリスマスツリー作りなどを行う団体のブースには、たくさんの子どもたちが参加し、様々なアクティビティを楽しんでいました。子どもたちの笑顔が会場を彩り、保護者からは「工作できるブースが

楽しそうで、子どもたちもいろいろと作れて嬉しそうだった」という好評の声も寄せられ、各ブースは大いに人気を博しました。

参加団体の中には、「イベントの開始前から多くの方が並んでいてびっくりした」と述べる

声もあるほど、たくさんの来場者が訪れた今年のNフェス。各団体や企業が行っている社会貢献活動を楽しさとともに、幅広い年齢層の方々へ伝えることができた素晴らしい2日間でした。

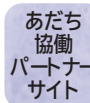


両日とも晴天に恵まれ、大盛況だったあだちNPOフェスティバル2023の4会場。



「くわしく聞きたい!」
「自分も何かが始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
足立区 NPO 活動支援センターに
アクセスしましょう。



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp

スタッフのつぶやき

「あだち区民まつり・A-Festa2023」が、10月7日(土)、8日(日)、荒川河川敷・虹の広場で開催され、NPO 活動支援センターも参加しました。初日はチラシや「NPO 相談出張受付中」の看板が飛ばされる強風に見舞われましたが、「NPO 活動を応援できるコインゲームをやっている」と大声で呼びかけたところ、多くの子どもたちが参加してくれました。保護者の方々には NPO 活動の役割や意義をお伝えすることもでき、貴重な機会を設けることができたと思います。また、普段、地域活動や NPO 活動に関わりがない方々が、大勢、私たちのテントを訪れてくれました。相談コーナーでは NPO についての相談や活動についての質問に答えることができ、相談員としてやりがいのある時間を過ごすことができました。2日間のゲーム参加者651人、相談31件。皆さま、ありがとうございました。(相談員:川名)

*** 足立区 NPO 活動支援センター開館日・開館時間 ***

開館日: (火)~(日)
開館時間: 午前9時~午後9時30分 (月末の平日は午後5時まで)
休館日: (月)、(祝)、年末年始

特集 地域活動団体と組合の協力で育む子ども食堂

協働・協創は団体同士に限らず、地域活動団体と企業や組合間でも行われています。今回は、地域活動団体と協同組合の連携事業にスポットを当て、子ども食堂「がるまる」の宮本明彦さんとパルシステム東京・足立センターの鈴木誠さんにお話を伺いました。

地域社会に支援と笑顔をもたらす 団体と協同組合の連携

がるまる×パルシステム東京・足立センター

がるまるとパルシステムの子ども食堂

がるまるは、宮本明彦さんが代表を務め、足立区鹿浜周辺にて子ども食堂などを運営・開催している地域活動団体です。活動を開始したのは5年ほど前。一方、パルシステムは1990年2月に設立された生活協同組合（生協）で、正式名称を「パルシステム生活協同組合連合会」といいます。全国にある10の連合会で形成され、その中のパルシステム東京・足立センターが、がるまると連携して行っている子ども食堂が「がるパル」です。

「がるパル」は、がるまるがパルシステムからの食材支援と活動場所の提供を受けて月に一度行っています。生協主催の講演会に宮本さんが登壇した際、生協の委員会活動をされていた方との交流が、野菜や冷凍食品などの提供に繋がりました。特に、大雪の影響で引き返された4トントラック一台分の冷凍食品は、がるまるを通じ、別の子ども食堂を運営する団体にも分け与えられ、地域の食料支援に大いに貢献しました。

地域連携の広がりと効果

子ども食堂を運営する多くの団体の最大の悩みは「開催場所」と「食材の確保」です。「がるパルの魅力は、パルシステムの看板が持つ信頼性。利用者もパルシステムの食品であれば安全でいい品物だと、安心してくれます。これは非常に大きいです。また、がるまるのマルシェにパルシステムさんが出展されたときに、子ども食堂やフードパントリーで、野菜や食材を受け取っている人たちがお礼に来てくれたこともありました」と、パルシステムへの信頼とともに、利用者とパルシステムとの繋がりの大切さを宮本さんは話してくれました。また、他の組織との繋がりが、

連携、信頼を広げることになり、非常に大事なことでと考えています。

一方で、商品を通じて地域の人々に喜んでもらえることにパルシステムの鈴木さんも喜びを感じています。鈴木さんが以前勤務していた江東センターをはじめ、他のセンターでは地域活動団体と連携して事業を行っているところはあまり多くないそうです。「10月に行われたあだち区民まつりに出展したとき、子ども食堂にいらしたお母さま方から『鈴木さんですよね？』と、声をかけていただきました。そうした広がりを持って、どんな子ども食堂やパルシス

テムの商品を利用いただけたらうれしいですね」と鈴木さんは笑顔で話してくれました。

フードロス削減にも寄与する「がるパル」

地域協力の精神を大切にし、地域活動団体と協同組合が連携して行っている子ども食堂「がるパル」。宮本さんと鈴木さんはこうした活動がフードロスの削減にも貢献できると期待しています。「日々発生する食品ロスを考えると、もっと食べたいけれど経済的に食べられない家庭に支援ができればいいと思います。例えば、パルシステムに駅の売店のような場所があれば、そこで賞味期限間近な商品や店舗で販売することが困難な食品が手に入り、いつでも食べられるイメージですね」と、宮本さんは言います。鈴木さんも、パルシステムの現状としては、キャンセル品を渡すにしても制限があるため、難しい部分も感じながらも、「食に困っている家庭の助けになるようなシステム作りをできれば」と目標を語ってくださいました。

最後に、団体の運営で大切にしていることを伺うと、宮本さんは「継続は力なり」と団体としての継続的な取り組みの重要性を伝え、また、課題が発生した際には一人で悩まず相談することが重要だと言います。鈴木さんも、「パルシステムの組合員でなくても積極的な相談を呼びかけ、協力できる範囲でサポートしていく」と笑顔ではなしてくれました。

がるまるとパルシステム・足立センターの連携は地域の子どもたちや住民にとっての食と心の支えとなっています。



足立センター内にある福祉棟3階パルひろばで月一回行われている子ども食堂「がるパル」

新規登録団体紹介

未来の吹奏楽文化のために あだちスクールバンド サポーターズ

あだちスクールバンドサポーターズは、小・中学校、高等学校の吹奏楽部・金管バンドの指導補助を行うことを目的に活動している音楽文化サポーター団体です。メンバーは足立区内の小学校で活動していた金管バンド出身の8人で、2023年5月に設立されました。団体の代表である野間一克さんは、吹奏楽指導者の講習会を受講した際、部活動の存続が厳しいという課題に直面。未来の世代にも吹奏楽文化を継承したいという思いから、活動をスタートさせました。

聞きたい、あなただけのストーリー

子どもたちの笑顔が活動の原動力

野間さんたち、あだちスクールバンドサポーターズの活動の原動力は、子どもたちの笑顔にあります。難しいフレーズに苦戦する子どもたちに対し、野間さんたちが教えた練習方法が実を結び、数ヶ月後の合奏で彼らの上達を実感。『教わった練習内容を毎日実践したおかげです』と話してくれた子どもたちの笑顔は忘れられません」と、彼らの成長に対する喜びを野間さんが語ってくれました。努力はしているけれどなかなか上達しない、具体的な練習方法がわからない、そんな子どもたちの助けになりたいというのが、野間さんたちの活動の信念です。また、子どもたちだけではなく、指導や運営で悩む大人へのアプローチも思

案しています。そのひとつが2024年1月に足立区生涯学習センターにて開催予定の「楽器体験ワークショップ」（仮称）です。現在、内容を企画中ですが、このワークショップを通じて、指導者、運営者にも活動を知ってもらい、課題を抱えるバンドのお手伝いにつながればと考えている野間さんたち。

子ども、大人問わず、吹奏楽文化に興味がある方は、ワークショップに足を運んでみてはいかがでしょうか。



部活やバンドの課題について気軽に相談してほしいと野間さん

注目の活動

センターピクニックマップ

わんちゃんと一緒に美化活動 わんわんサポーター綾瀬

NPO法人わんわんサポーター綾瀬は、犬の散歩とともにマナー向上と町内美化を図る活動を行なっています。犬を飼う人が増える一方、糞尿の苦情や飼い主のモラルが問われるようになった中、地域の方に理解してもらえるようにと始めたことがきっかけです。清掃活動のほか、飼い主のマナー向上の意識付けや災害時の助け合いを目的とした交流会、しつけの講習会なども実施することで、飼い主だけではなく、地域住民と犬が心を合わせて生活できるように活動を続けています。



指示のコツを覚える飼い主と、それに応える犬たち